

## 「地震・噴火史料データベース(古代・中世編)」のインターネット公開

## Release of Online Database of Historical Documents on Japanese Earthquakes and Eruptions in the Ancient and Medieval Ages

# 石橋 克彦 [1]; 古代・中世地震史料データベース化研究グループ 石橋 克彦 [2]

# Katsuhiko Ishibashi[1]; Ishibashi Katsuhiko Research Group on Databasing Japanese Ancient and Medieval Historical Earthquake Documents[2]

[1] なし; [2] -

[1] none; [2] -

<http://historical.seismology.jp/erice/>

日本の歴史地震・噴火研究の根本資料である既刊地震史料集が抱える問題(内容の信頼性と活用のしにくさ)を古代・中世に関して抜本的に改善するために、科学研究費補助金「古代・中世の全地震史料の校訂・電子化と国際標準震度データベース構築に関する研究」(03~05年度, 基盤研究(A))および「古代・中世の地震史料の校訂・データベース化と共有型拡張・活用システムの開発」(06~07年度, 基盤研究(B))によって、理学・日本史学・情報学の専門家が学際共同研究をおこなってきた(石橋・他, 03年秋地震学会, 05年合同大会; Ishibashi et al., AOGS2005, IUGG2007)。その成果として、表題のデータベース(以下, DB)を一般向けに公開する運びとなった。URLは08年5月に標記サイトに掲載する予定である。

このDBは、日本の古代・中世の地震・噴火および関連事象に関する既刊の文献史料のすべてについて史料学的・理学的検討を加えた結果を収録し、検索の便に供する。収録対象期間は、便宜上、近世初期の1607年2月(慶長十二年一月)までとした。作成に際しては、次の既刊史料集を参照した。a. 武者金吉編(1941): 増訂大日本地震史料, 第1巻, 文部省震災予防評議会, b. 東京大学地震研究所編(1981, 1982, 1989, 1993): 新収日本地震史料, 第1, 2巻, 補遺, 続補遺, c. 宇佐美龍夫編(1998, 1999, 2002, 2005): 「日本の歴史地震史料」拾遺, 別巻, 拾遺二, 拾遺三(以下ではaを「武者史料」, b・cを「新収史料等」と略称)。

このDBでは、個々の地震・噴火などを「事象」と呼び、一つの事象に関する情報の集合を「事象レコード」と呼ぶ。DBは3000余の事象レコードを有する。一つの事象レコードは、事象番号, 事象日(和暦・ユリウス暦・グレゴリオ暦を選択可能), 事象等級(確実度の高い史料にもとづく事象が1, そうでない事象が2), 事象種別(地震, 噴火, 鳴動, その他), 綱文, 史料群(文献名+史料本文の群)から成る。基本的には『大日本史料』(東京大学史料編纂所編)の体裁を踏襲している。事象の概要を示す綱文は本研究で新たに執筆し、武者史料とは異なっている。史料群では、文献名+史料本文ごとに史料等級を示している。それは、武者史料・新収史料等に収載の全史料と新発見史料についてすべて検討した結果であって、概ね次の基準に従ってマークを付した: A. 基本史料(同時代史料), B. 参考史料(主として近世までに成立した史料), C. 主として明治以降に書かれた文献, D. 史料としては使えず削除すべきもの, E. 保留史料(本研究期間には信頼性を確認できなかった史料, 仮称「古代中世地震史料研究会」で継続して検討)。文献名の後には史料本文の確認に用いた刊本等が示してある。いずれは史料解題DBにリンクする予定である。

DBを開くと、標準一覧表(閲覧・検索用画面)が現われる。ここでは、事象等級が1の事象のみについて、事象番号・事象日・種別・綱文・史料数(文献の数)が表示される。事象番号をクリックするか、複数事象を選択して詳細表示ボタンを押すと、史料本文が見られるが、史料等級がAとBの史料のみ、すなわち歴史学によって史料と認められるレベルのものだけが精選されて示される。もちろん、いろいろな条件や任意の文字列によって事象の検索が可能である。史料等級がCとEの史料、およびそれらにしかよらない事象を見たいユーザのためには、エキスパートモードが用意されている。ただし、このモードでは、史料の信頼性が不確実であることと、それにもとづく事象の実在性も不確実であることに十分注意する必要がある。史料等級Dのものは本DBでは一切表示されない。なお、公開までに若干の変更が生じることもありうる。

本研究グループのメンバーは以下の14名である: 石橋克彦(神戸大学都市安全研究センター/地震学・史料地震学; 研究代表者), 小山真人(静岡大学教育学部/火山学・史料地震火山学), 佐竹健治(東京大学地震研究所/地震学・古地震学), 都司嘉宣(東京大学地震研究所/海洋物理学・史料地震学), 早川由紀夫(群馬大学教育学部/火山学・史料火山学), 榎原雅治(東京大学史料編纂所/日本中世史), 笹本正治(信州大学人文学部/日本中・近世史), 高橋昌明(神戸大学大学院人文学研究科/日本古代・中世史), 田島島哲(東京国立博物館事業部/日本中世史・史料学), 藤田明良(天理大学国際文化学部/日本中世史・東アジア交流史), 矢田俊文(新潟大学人文社会・教育科学系/日本中世史), 安永尚志(国文学研究資料館複合領域研究系/2005年度まで/情報工学・情報文学), 原正一郎(京都大学地域研究統合情報センター/情報工学・地域情報学), 前嶋美紀(まえちゃんねっと/システムエンジニア; 研究協力者)(所属は安永以外は08年1月31日現在)

